

中国語教育学会会報

第34号(通巻59号) 2012年4月25日発行

192-0393

東京都八王子市東中野742-1

中央大学法学部 佐藤富士雄研究室内

中国語教育学会

H P <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

目次

- (1) 新会長あいさつ
 - (2) 新役員紹介
 - (3) 事務局移転について
 - (4) 事務局からのお知らせ(・年会費の徴収について・住所、勤務先などの変更届について
・地区主催の研究会のお誘い・情報提供のお願い・科研費申請の結果について)
 - (5) 会誌第10号の正誤表送付について
 - (6) 新入会者紹介
 - (7) 会員の逝去について
 - (8) 第10回全国大会研究発表者氏名並びに題目一覧
-

(1) 新会長あいさつ 佐藤富士雄

この4月から、荒川清秀前会長の後を承けて、5代目の会長をお引き受けすることになりました中央大学の佐藤です。どうぞよろしくお願い致します。

本会発足から10年、前身である中国語教育協議会の発足から数えると15年を経て、本会は歴代の会長と会員の皆様のご努力により、約500名の会員を擁する近代的な学会に発展してきました。

最近実現した改革の主な成果だけをとっても、会誌『中国語教育』を専門に手がける編集委員会を設置して、どの投稿論文の査読にも編集委員が必ず加わり、執筆者との間で原稿の修正と再査読を繰り返して出版まで責任を負う「編集委員責任制」が整えられましたし、毎年初夏に開かれる全国大会では、すべての研究発表あるいは実践報告のレジュメを1冊にまとめた「予稿集」を発行して、会員が個々の発表のレジュメを求めて教室の間を走り回る苦勞から解放され、初日の晩に予稿集を見ながら翌日の分科会で聴く発表を選び、質問も用意できるようになりました。

また、各地区主催の研究会を全国の会員に対して開かれたものにする試みも、着実に成果を挙げつつあるように見受けられます。例えば、今年の3月に北九州大学で開催された『中国語教科書調理法 教科書を「教材」にするために』という表題の公開ワークショップは、私も聴きに出かけましたが、発表者も参加者も地元九州の枠を大きく超え、発表の内容も具体的で示唆に富むものばかりで、会場のあちこちで活発な質疑応答の輪ができて、熱い雰囲気には満ちていました。

前会長の下で進められたこれらの大きな改革の成果は、今期もしっかりと受け継ぎ発展させて行く決意ですが、いずれも大きなエネルギーを必要とする仕事であり、任期中、それらを着実に実行

できたなら、まずは後任の会長としての責任を果たせたいと思います。その上にもう一つ、今期の目標を掲げるとすれば、それは姉妹関係にある中国語学会との違いを、より明確に打ち出すことではないかと思えます。

大学で中国語教育に従事している教員の多くは、中国文学や哲学、歴史学、政治学、経済学など、中国語学以外の専門を持っていて、その分野の学会には複数所属していても、中国語に関しては語学会一つに絞っている場合が少なくありません。語学会の全国大会、支部例会での発表や、会誌に収録される論文にも、教育に関するものがある程度含まれているために、特に不足を感じないですんでしまうのかも知れません。それどころか、中国語学が専門の先生方の中でも、語学会だけに参加しておられる方は、稀ではありません。この状況を変えて行くには、本学会がより教育分野に特化することが必要だと思われます。

教育の目標をどこに置くか、学習者の意欲や理解力と授業時間数の違いに応じた語彙と文法項目の範囲をどこまでに限定すべきか、それらに対応した教科書をどう作るか、そうして作られた教科書をどう利用して授業をするか、授業を楽しくかつ密度の高いものにするにはどうしたらよいか、試験問題はどうか作ったらよいか、成績評価はどうか行うべきか、語学留学は大学主催の集団メニューがよいか、個人単位の独自メニューがよいか等々、私たちに突きつけられた研究課題は山ほどあります。

これらのテーマは、学術論文にまとめるにはかなり工夫が要りますが、中国語教師なら誰しも日常的に関心を抱いている問題ばかりで、聴いて役に立つ実践報告や研究発表に直結するテーマです。採用人事や昇進人事において、学術論文や著書が主要な業績と見なされる現状では、そうした地味な報告や発表はあまり高く評価されない傾向があるかと思いますが、少なくとも本学会においては、全国大会、地区主催の研究会を問わずそれらを大切に扱い、会誌の編集に際しても、それらの成果を踏まえた実践報告書や、現状の問題点を分析して解決策や改善の方向を示した論文に対し、十分な紙幅を提供して行きたいと考えます。

しかしよく考えてみれば、上に挙げた「独自」の目標は、実は本会の創立以来、歴代の会長と会員諸氏が一貫して追求してこられたもので、新発見でも何でもないことは明白です。

結局のところ、今期の任務も、これまで本会が歩んできた道の延長線上を、会員の皆さんの要望を大切にしながら一步一步着実に前進する、ということに尽きると思えます。会長として今後2年間、先頭に立って努力して行く覚悟ですので、どうか温かいご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

(2) 新役員紹介

新役員については、11月に行われた役員選挙の結果を基礎に、地域や所属分野等の要素を考慮の上、以下の方々に委嘱しました。手続きとしては、6月の全国大会当日に開催される会員総会の承認を経て正式に決定します。

新役員名簿（任期：2012年4月～2014年3月） 五十音順

顧問：輿水 優

会長：佐藤 富士雄

代表理事：郭 春貴、平井 和之、藤井 達也、三宅 登之、山崎 直樹、山田 眞一（今期6名）
理 事：荒川 清秀、岩本 真理、植村 麻紀子、大川 完三郎、加藤 晴子、清原 文代、
日下 恒夫、胡 興智、佐々木 勲人、田邊 鉄、陳 淑梅、西 香織、古川 裕、
丸尾 誠、村上 公一、守屋 宏則、依藤 醇（今期17名）
会計監査：竹中 佐英子、平山 邦彦（2名）
幹 事：大宅 利美、桑野 弘美、原 正人（今期3名）
編集委員：山田 眞一（委員長）、岩本 真理、郭 春貴、加藤 晴子、平井 和之、丸尾 誠、
村上 公一（7名）

（3）事務局移転について

これまでの2年間、愛知大学豊橋校舎荒川清秀研究室内に置かれていた学会事務局は、この4月から下記に移転しました。

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1 中央大学法学部
佐藤富士雄研究室内 中国語教育学会事務局
E-mail : headoffice@jacle.org（変更しました）

（4）事務局からのお知らせ

・年会費の徴収について

2012年4月からの新規会員を含めて、2012年度の年会費5,000円を、同封の振替用紙に必要事項をご記入の上、2012年7月末日までにお振り込みください。なお、事務局が移転しても郵便振替番号はそのまま継続されますので、ご安心ください。滞納分がある方につきましては、個別に振替用紙に納付金額を記入させていただきました。できるだけ一括して納入してください。不可能な場合は、通信欄にその理由をご記入ください。請求金額が合計15,000円以上で、7月末日までにお支払いがない場合は、会則にしたがい除籍となりますのでご注意ください。

・住所、勤務先などの変更届について

郵便物が住所不明で事務局に戻ってくるが多くなっています。住所や勤務先などの変更が生じた場合には、速やかに学会事務局まではがき、封書、電子メール等でご通知ください。なお、事務処理上の煩雑さを避けるため、振込用紙への記入やファクスでの連絡はご遠慮ください。

・地区主催の研究会のお誘い

今年度も関東、関西、九州地区主催の研究会の発表者を広く募集しています。

研究発表を希望される会員、あるいは講演会などを企画される場合、関東地区は平井和之氏（日本大学）、関西地区は山崎直樹氏（関西大学）、九州地区は西香織氏（北九州市立大学）までご連絡ください。各連絡先のアドレスは、学会ホームページ「研究会・講演会」ページからリンクされていますので、ご利用ください。

・情報提供のお願い

中国語の教育・研究にかかわる研究会や、スピーチコンテストなどを開催するときは、ぜひ事務局にご一報ください。学会ホームページ(<http://www.jacle.org/>)上で広く通知させていただきます。

・科研費申請の結果について

2010年度に引き続き2011年度も科学研究費支給を申請した『中国語教育の現状と課題』については、今回も不採択となりました。4月末の理由の開示を待って、今後の方針を協議する予定です。

(5) 会誌第10号の正誤表送付について

先ごろお届けした会誌『中国語教育』第10号冒頭の【シンポジウム 中国語教育の問題点を探る】の朱春躍氏の論文中に、担当者の不注意・不手際により、多数の印刷ミスが発生したため、正誤表を作成し、この会報に同封して朱先生並びに全会員の皆様にお届けします。また、近日中に本会ホームページ上に訂正済み論文の全文を掲載致します。朱先生をはじめ会員の皆様にご迷惑をお掛けしたことを、深くお詫び申し上げます。(この項 シンポジウム記録編集担当 平井和之記)

(6) 新入会者紹介

本年1月以降の新入会者は、下記の9名の方々です。

斯日古楞(新潟大学・非)、橋本 愛(北九州大学・非)、穆 迪(京都大学・院)、
王 其莉(東北大学・院)、邱 焱(科学技術振興機構中国総合研究センター)、
刘 海云(職業能力開発総合大学校・非)、由川 美音(関西外国語大学・非)、
严 馥(大阪大学・非)、一瀬 拓樹(山梨学院大学・非)

(7) 会員の逝去について

本会会員の三井啓吉氏(創価大学文学部准教授)が、去る4月2日逝去されました。
享年62歳。謹んで弔意を表すとともに、会員の皆様にお知らせ致します。

(8) 第10回全国大会 研究発表者氏名並びに題目一覧

中国語教育学会第10回全国大会は、来る2012年6月2日(土)、3日(日)の両日、千葉市美浜区の神田外語大学を会場に、高等学校中国語教育研究会との合同大会として開催します。発表者氏名並びに題目は、次ページの表のように決定しました。

今回も予稿集を作成しますので、発表者は「予稿集作成要領」に基づき、期日までに原稿を提出して下さい。期日までに到着しなかった場合は、発表の権利を放棄したものと見なしますので、ご注意ください。

なお、会場への交通手段、発表者の所属機関、分科会番号、発表時間等に関しては、別にお届けする「全国大会開催案内」および本会ホームページをご参照下さい。

また、お車での来場は避けていただき、電車、バス等をご利用くださるようお願いいたします。

第10回全国大会研究発表者氏名並びに題目一覧

発表者氏名	題 目
今井 佳子	「中国人と出会う」授業実践
石下 景教 [*] 水口 一久 楊 杰 川 渡辺 忠温	対話型授業実践による日中集団間異文化理解の試み
渋谷 周二	基礎発音練習段階における自己効力感の向上をねらいとした1つの実践 自立的学習促進の第一歩として
邱 焱	中国語声調図式の提案及びその応用例
中村 剛和	中国語初級学習者における声調指導 V T法とL & R法の比較を中心に
严 馥	汉语教科书里的轻声标注状况
王 其 莉	中国語の“会”に関する一考察
王 欣 [*] 祝 东平	“不+性質形容詞”的語義分析
刘 志 伟	統語的受身の説明方法について 日本語母語話者の中国語学習者を対象に
浅野 雅樹	語彙を中心とした中級テキストの作成について
穆 迪 [*] 清水 千恵 田地野 彰	意味を重視した中国語文構造の指導 中国語テキスト掲載例文を用いた「意味順」の検証
栗原 祐美	語言衝突句式策略之研究 母語者與學習者之比較
上原 徳子	中国語履修者の学習信条調査について 宮崎大学の場合
西 香織	日本人中国語学習者の感謝に対する応答 中間言語語用論的角度から
阿部 慎太郎	日本人中国語初級学習者に見られる語素を手掛かりとした未知語の推測とその効果
曲 明	日本人中国語学習者の会話に対する中国語母語話者の評価
清原 文代 [*] 浦山 あゆみ 田邊 鉄	みんなで育てる教材 クリエイティブ・コモンズ・ライセンスによる中国語教材公開の試み
由川 美音	中国語学習指導ガイドラインについての考察 高校生学習者向け教材との比較から
橋本 愛	役割語という視点からのアプローチ “好”を例に
若森 幸子	餃子から文化を考える授業
金子 真生	中国語の授業における「ふりかえり」の活用について

([*] = 代表者)